

第2回 平取ダムモニタリング部会 議事概要

| | |
|------|---|
| 開催日時 | 令和3年11月4日(木) 10:30~12:00 |
| 開催場所 | WEB会議形式による開催 |
| 出席者 | 赤坂委員、高橋委員、中津川委員、藤巻委員、眞山委員、丸谷委員 |
| 概要 | <p>【議事1：平取ダム建設事業の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に意見なし <p>【議事2：モニタリング調査結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・典型性・陸域の植生について、この地域でよく見られる外来種はオオアワダチソウだったが、今回の調査では沙流川下流でケカナダアキノキリンソウが確認されており、外見がよく似ているため、同定の際に注意して欲しい。 今後、新しい外来種が侵入する可能性があるため、モニタリングで注視してほしい。 ・クマタカの繁殖状況の整理について、「繁殖しなかった」と、繁殖したものの育雛途中で失敗した」は同じ評価とはせずに評価を分けること。 ・令和3年は7月に30℃を記録するなど夏季の水温が高くなっており、サケ科魚類の生息に厳しい環境となっていた。 ダム運用後は放流水の水温変化が少なくなるため、5地点の自動水質監視装置の結果を活用してダム運用による魚類・底生生物への影響を把握してほしい。 ・サクラマスは発信機を装着しての追跡調査では、上流に遡上した個体が確認されなかったが、産卵床調査等の関連調査では遡上を確認されている。サクラマスの遡上時期は流量が多く濁りやすくなっており、発信機の感知低下の影響も考えられるため、関連調査も含めて総合的に評価した方がよい。今後の魚道の評価においても同様である。 ・モニタリング調査計画の項目に雨量が入っていないが、平取ダムは流水型運用であり、下流への土砂供給の影響が懸念されるため、河床変動と同様と考え、雨量データとあわせてとりまとめた方がよい。 また必要に応じて、地点雨量のみではなく、レーダー解析雨量や流域全体の雨量を合わせて整理した方がよい。 <p>【議事3：次年度以降のモニタリング調査計画(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生態系(典型性・陸域)のコドラート設定が、森林の対照区が草地になっている調査区があり、調査結果比較の際に、湛水による影響なのか判断が難しいと思われるので、評価の際は注意が必要である。 ・エゾサンショウウオの代替適地について、水深が浅いとアライグマ等による食害や水枯れした場合に全滅してしまう可能性がある。一方で、定期的に維持管理が必要なのは持続性の観点から望ましくない。 ・水枯れしやすい代替適地の対策として、地下水位の状況をモニタリングし、池の拡幅により地下水が入りやすくする等の維持管理がかからないよう工夫をする方がよい。 ・再生事業や代替事業が、むしろエコロジカルトラップとなり個体群に悪影響を与えないように注意が必要である。 |

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・平取ダムは北海道初の流水型運用を行うダムであり、供用後の4月から6月における典型性河川域の魚類・底生動物の調査は、北海道では前例がない。流水型運用を行っている全国の他ダムを参考にしながら、評価可能な調査計画を検討する必要がある。・試験湛水前後のモニタリング期間は令和2年から令和6年を予定されているが、今後の調査結果等によっては、モニタリング期間見直しの検討も必要である。・ダム運用により貯水位が大きく変化する時期（4月、7月、12月）は大きく環境が変わる時期でもあるので、生物への影響もある水質や濁度など調査時期やデータ整理について注意が必要である。・元々二風谷ダムとの関連で建設されているので、二風谷ダムも合わせて流域全体の土砂の動態や収支を分析できるよう調査を実施して欲しい。 |
|--|---|